

式辞

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

オンラインで、会場の様子をご覧いただいている保護者の皆さま、心よりお祝いを申し上げます。

昨今、諸外国で見られる争いについては、この現代において未だ新たな争いが勃発するのかと、メディアや SNS からの生々しい映像を目の当たりにし、大きな衝撃を受けたに違いありません。

新入生の皆さん、そして在学生の皆さん、そして教職員の皆さんには、星城大学の一員として、皆で平和の再来を願い、祈りたいと思います。

想像してみてください。かつて、この日本にも諸外国と戦争状態であった時代がありました。日本の町も、あのように破壊され、焼け野原になっていたのでしょう。

戦前に私塾を立ち上げた創立者は、第二次世界大戦直後の1945年、日本が連合国軍の占領下にあったころ、英学塾を設置しました。

このとき創立者は、

英語を学ぶのは、言語そのものを知るのが最後の目的ではなく、世界に目を向け視野を拡げ、世界の国々の道徳や科学や文化を理解し、摂取し、人格を養い、平和な文化国家の実現に寄与するためである

と教育構想を表しました。当時の日本が、国全体として、視野が狭く、独りよがりになっていたことが、戦争の原因となったのだと考えたのです。

このようなルーツの下、高等学校設置や短大設置を経て、設立されたのが本学、星城大学です。この後の理事長の告辞では、本学の理念である「建学の精神」について触れられると思いますが、このような想いが、星城大学建学の精神の根底に流れています。

そして本学の学位プログラムや取組みは、この建学の精神の具現化を目指しデザインされています。

皆さんは本学で、経営学部とリハビリテーション学部もしくは大学院で学ぶことになりますが、これも、経営学という学問そのもの、もしくは、リハビリテーション学という学問そのものを知り学ぶのが最後の目的ではありません。

本学での学びと、多様な人々との交流、また、多様な経験を通して、視野を拡げ、道徳や知識や文化を吸収する。そして、地域の企業や、団体や、病院で、皆さんが共に活躍する。

ひいては家族が豊かに、そして平和な日本の社会が、世界の国々とともに文化国家として発展していく。

そのような未来を描き、そのような未来の社会を創造する一員になることを目指してほしいのです。そしてそれが、星城大学が建学の精神として掲げる「彼我一体」への道のりだと確信しています。

ではそのために、具体的には、どのように行動すればよいのでしょうか？

参考にしてほしいものの一つとして、創立者の行動規範を紹介します。

それは、

「吾、何であるか」「吾、何によって有り得るか」「吾、何を為すべきか」

です。

しかしながら、このままでは少し抽象的で分かりにくい表現かもしれません。新入生の皆さんに寄り添った表現に言い直すとすると、次のようになるのでしょうか。

一つ、何を学びたいのか

一つ、自分は、何ができるようになったのか

一つ、平和で豊かな社会に寄与するために、自分は将来、どうなりたいのか

新入生の皆さんには、この3点を考え続けながら大学生活を深めて頂きたいと思います。もう一度。

一つ、何を学びたいのか

一つ、自分は、何ができるようになったのか

一つ、平和で豊かな社会に寄与するために、自分は将来、どうなりたいのか

これを、繰り返し自問自答しながら、日々に新たなる「我」を磨き上げ造っていくこと、つまり、皆さん自身が本学での学びを通して「自分づくり」を深めていくことを期待したいと思います。

最後になりますが、星城大学へようこそ。

令和4年4月3日

星城大学

学長 石田隆城